

# 国立大学法人北見工業大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

北見工業大学は、「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を目指している。第2期中期目標期間においては、大学院では実践的教育を充実し、企業等の開発現場で役立つ専門技術者及び高度専門技術者の育成に努めることを目標としている。

この目標達成に向けて、平成24年度に計画している大学院博士前期課程の改組について、基本戦略立案会議で方向性を示し、在学生や企業に対して実施した出入口に関するアンケート等を基に現状分析を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、平成21年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、大学院博士課程の学生収容定員の未充足については、大学院博士課程の改組等により学生収容定員の充足率が112.5%となっており、指摘に対する取組が行われている。

財務内容については、公募情報カレンダーに共同利用機関等の研究公募に関する情報を新たに加え、また、地域の各種協議会等に参画し、外部資金獲得に向けて連携体制を図った結果、奨学寄付金が増加し、共同研究についても前年度並を維持している。

教育研究等の質の向上については、大学院博士前期課程の科目に新たにインターンシップを開設し、専門性が必要な受入企業とのマッチングを各専攻教員で構成する就職支援室が中心となり行っている。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教員の任期制について、現行制度の課題と効果を検討し、各学科等の教員の業務や職種を踏まえつつより多面的に判定するため、「国立大学法人北見工業大学任期制教員の再任に関する要項」等の見直しを決定し、平成23年度から実施することとしている。
- すべての教員公募について、男女共同参画社会基本法に則り教員選考を行うことを明記するとともに、国際交流センター准教授の採用にあたっては、女性に限定した公募を行い、外国人女性1名を採用するなど、女性教員採用促進に向けた取組が行われている。
- 平成21年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、大学院博士課程の

学生収容定員の未充足については、大学院博士課程の改組等により学生収容定員の充足率が 112.5 % となっており、指摘に対する取組が行われている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(2) 財務内容の改善に関する目標**

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、  
③資産の運用管理の改善〕

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 公募情報カレンダーに共同利用機関等の研究公募に関する情報を新たに加えたほか、地域との連携を強化するため、地域の各種協議会、運営委員会に参画するとともに、各種イベントに参加し、外部資金獲得に向けて連携体制を図った結果、奨学寄付金が増加し、共同研究についても前年度並を維持している。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 創立 50 周年事業として行われた福利厚生施設の改修工事に伴い、大学会館内に展示スペース「KIT GALLERY」を新たに設置し、パネル等の関係資料や画像のスライドショーにより、大学の歴史、大学の特徴を活かした研究や取組等の大学情報を発信する場としている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 食堂・大学会館屋上に 25kw の太陽光発電設備を整備し、経費削減を図るとともに、省エネルギー及び温室効果ガスの削減（年間で CO<sub>2</sub> 換算約 20 トンの削減見込）に貢献している。
- 学位審査に係る手続等の透明化・客観性を確保するため、学位論文審査委員会主査について他大学にアンケートを実施し、その結果を参考に学位論文審査に係る審査委員の在り方について検討を開始している。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**II. 教育研究等の質の向上の状況**

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学院博士前期課程の科目に新たにインターンシップを開設し、専門性が必要な受入企業とのマッチングについては、各専攻教員で構成する就職支援室が中心となって行っている。
- 環境保全学生委員会 (KITeco) については、北見市内で実施してきた環境教育活動・ボランティア清掃等が評価され、5 月に北海道クリーン作戦北見市推進会議から表彰されている。
- 国立極地研究所と包括連携協定を締結し、北極温暖化研究や学生の南極地域観測隊同行等、寒冷域研究に関する研究交流を実施している。
- 知的財産活動の推進による社会貢献を目指し、職務発明規程の改正やセミナー・研修会を開催するなど、教職員の知的財産に関する啓発を行っている。
- 図書館利用者のニーズを踏まえ、夏季休業期間（8、9 月）について試行的に土日

祝日の開館を行ったところ、それ以外の期間の土日祝日と同等の入館者数があり、ニーズに沿った地域貢献推進のため、平成 23 年度以降の継続を決定している。

- 国際交流推進のため、留学を希望する者が事前に必要としている情報を留学生へのアンケートにより把握し、国際交流センターのウェブサイトで発信している。
- 開学 50 周年記念に際し、地域貢献の一環として行った記念講演会には、北見市を含む道東地域から多数の参加があったほか、国際シンポジウム（IWMST2010）には、世界各国から 21 名の研究者が参加するとともに、学生 11 名が研究発表を実施するなどしている。